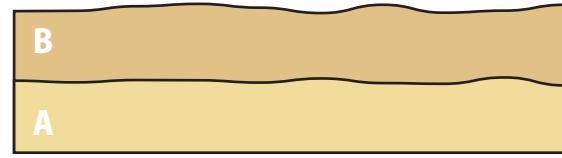


足跡化石のでき方・現われ方

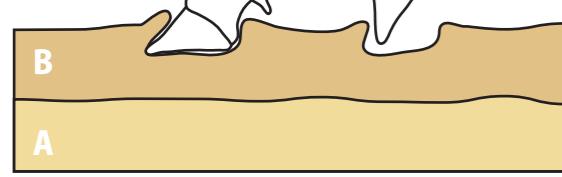
足跡化石ができる環境は、もともと河川の中州や湖沼の波打ち際のぬかるみなど、水流の変化の影響を受けた場所で、空気に触れて少し乾燥するような場所と考えられます。そこを複数の動物が通って足跡がつき、その形が消える前に土砂で覆われたもので、足跡として残る確率は「偶然に等しい」ものです。しかも、化石となって見つかる可能性は「日本中で見つかる貝化石の比にならない程・・・まれ」なことなのです。

①



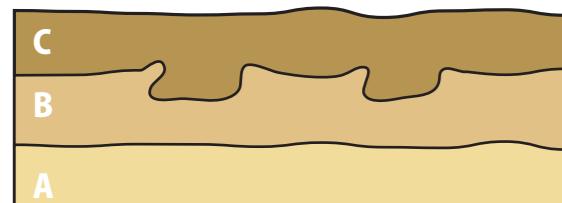
Aの地面にBの地層（泥や砂）がおおいます。

②



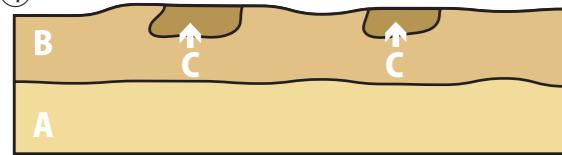
たまたま泥や砂の層をシカ等が歩き、その跡が、Bの地面に残ります。

③



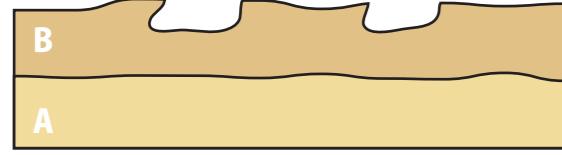
同じようにBの地層の上を、Cの地面がおおいます。

④



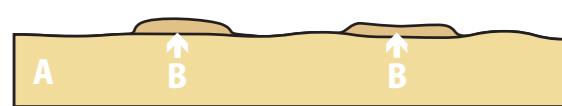
長い時の流れの中で、Cの地層の上部がけずられ、足跡化石が現れます。

⑤



更に足跡穴の泥や砂(C層)がけずりとられて足跡化石が現れます。

⑥



Bの地層もけずられ重みが加わった一番底の固い部分だけ残るものもあります。

香住の足跡化石は、その種類と数の多さでは日本一です

！ 海の文化館に展示コーナーを設けています

発見された足跡化石の写真や型を取った模型を作成し、海の文化館（香住区境）に1コーナーを設けています。現地探検ができない、太古の動物の生活をみることができます。ぜひ、おたちよりください。

なお、町内4地点の内、見学探検できますのは香住区下浜の「平島」地点のみとなります。他の地点は危険をともないますため、現地探検はできません。

足跡の「主」は一体…【香住に残った足跡化石】

足跡は大型哺乳類が計3種・爬虫類が1種・鳥類（ツル類、サギ類）2種の計6種です。足跡の平均の大きさはゾウ類が長さ20cmぐらい、幅18cm、サイ類が直径30cmで、いずれも10個以上を、シカ類はそれぞれ10~5cm前後で、大小計30個以上があります。又、ツル、サギ、…コウノトリと見られる鳥類の足跡も計12個以上見つかっています。全体では300個を超える大変な数といえます。

日本海側では日本で3例目の発見ですが、これ程多くの種と足跡の数では日本一です。

シカの仲間



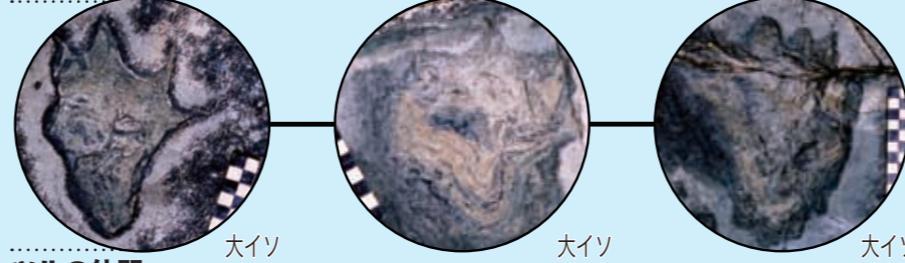
ゾウの仲間



サイの仲間



ワニの仲間



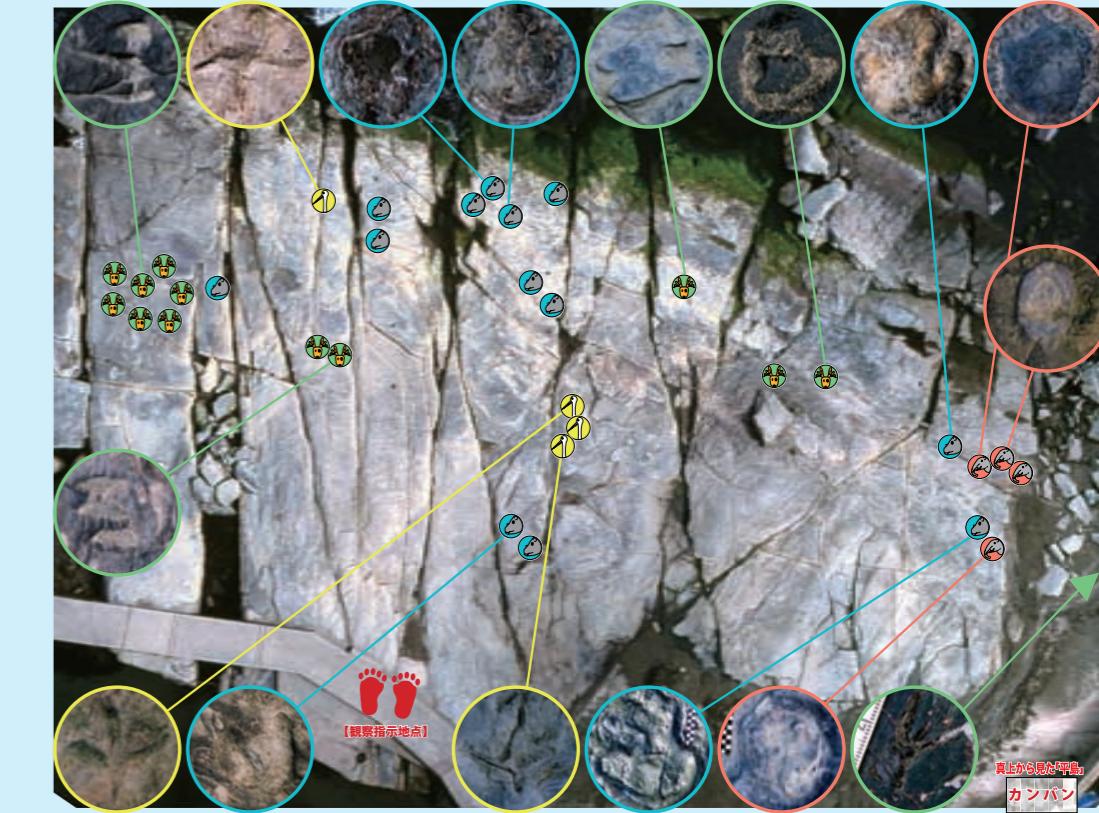
ツルの仲間



香住の太古を静かに語る

足跡化石

—香住にゾウやサイ・ワニがいたころ—



日本列島誕生(2,000万~1,700万年前)のころのものがたり

2003年7月、香美町（当時香住町）国指定名勝香住海岸内の4地点で2,000万~1,700万年前（新生代前期中新世）の大型哺乳類、爬虫類、鳥類の足跡化石が発見されました。この時代の足跡化石は日本では極めて少なく、太古の動物類を知る上で大変貴重なものです。

普通の化石の貝殻や骨・歯などは、それらの生き物の体の一部が棲息していた場所から運ばれたり、流れたりして残されたもので、確かにそこにいたとは断言できません。その点、足跡化石は湖や河川等のほとりの湿润な所を動物たちが確かに歩いていたというまぎれもない証といえます。

また、足跡の主の種類や大きさ、歩行や走行、指の数…、集団生活の様子…、等々をひもといていく面白さもあります。一方、このたびの足跡の発見と調査で、初めて日本海沿岸のグリーン・タフ地域にも前期中新世に豊かな魚類群集が栄えていたことが証明されました。また、九州北部～香住地域が、さらに北陸地域までつながっていた可能性が極めて高いことが分かってきました。

このように、彼らがはからずも残した足跡は、文字どおり香住の自然史の足跡であるとともに、日本列島誕生の謎をも解きあかす貴重な資料の贈り物なのです。

さあ、このパンフレットを持って、大昔の豊かな自然界を彷彿とさせる彼らからの『静かなる伝言』を受けとりに出かけましょう。

グリーン・タフ：新生代新第三紀中新世前期から中期の火山噴出岩を中心とした堆積物の総称

= 香美町・香美町教育委員会 =

〒669-6544

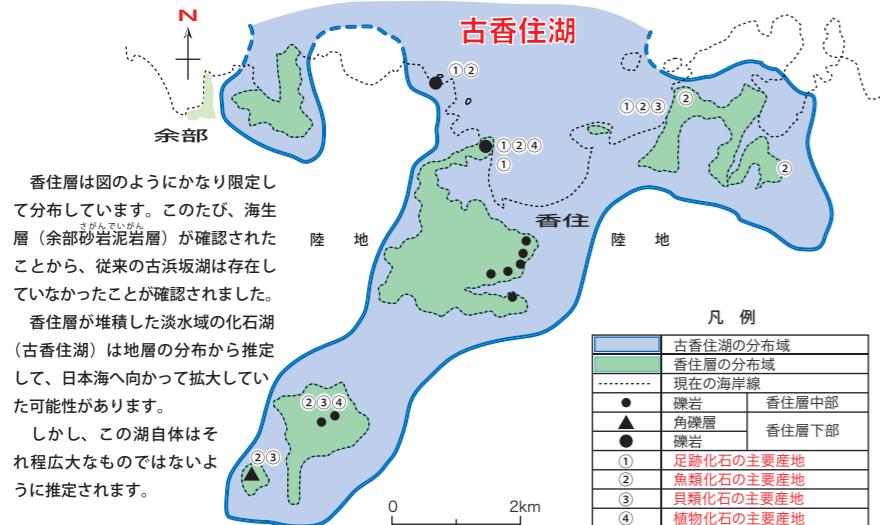
兵庫県美方郡香美町香住区香住 114-1

香美町立香住区中央公民館

【TEL 0796-36-3764・FAX 0796-36-3568】



香住層の分布図



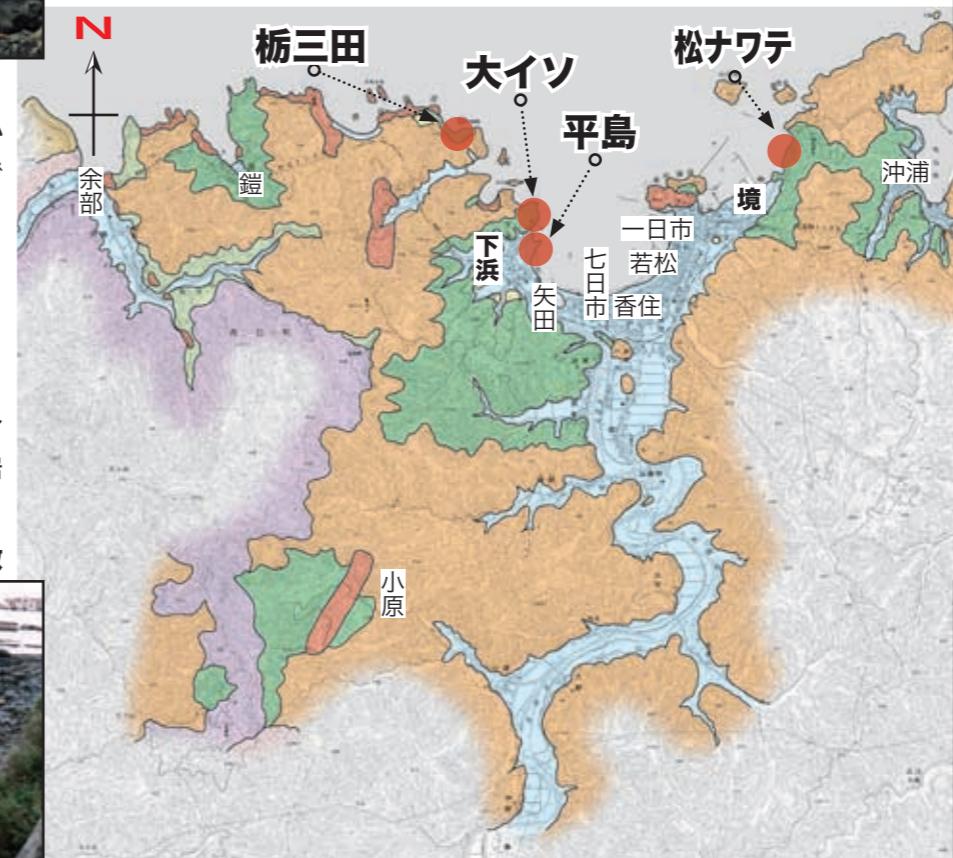
◇産出した化石たち◇



とちみた
栃三田

～香住足跡化石の4地点～

足跡化石群は、香住区中央部の海岸東西に約3km離れた4地点の泥岩・砂岩層で見つかりました。



下浜の北方200～300m。礫岩層、砂岩層、砂岩泥岩互層が東方、海側へ半島状に7～8ヶ所突出する。印跡層は小範囲の薄い泥岩層と細砂岩層面である。

印跡動物：ワニ・サイ・ゾウ・鳥・シカ類 多数



おお
大イソ



ひら
島

下浜漁港の南、県立香住高等学校の艇庫の東側に、砂岩層、泥岩層と砂岩泥岩互層が広く分布する。印跡層は粗粒砂岩層を除くほぼすべての面で、範囲は70m×30mである。

印跡動物：ゾウ・サイ・鳥・シカ類 数218個

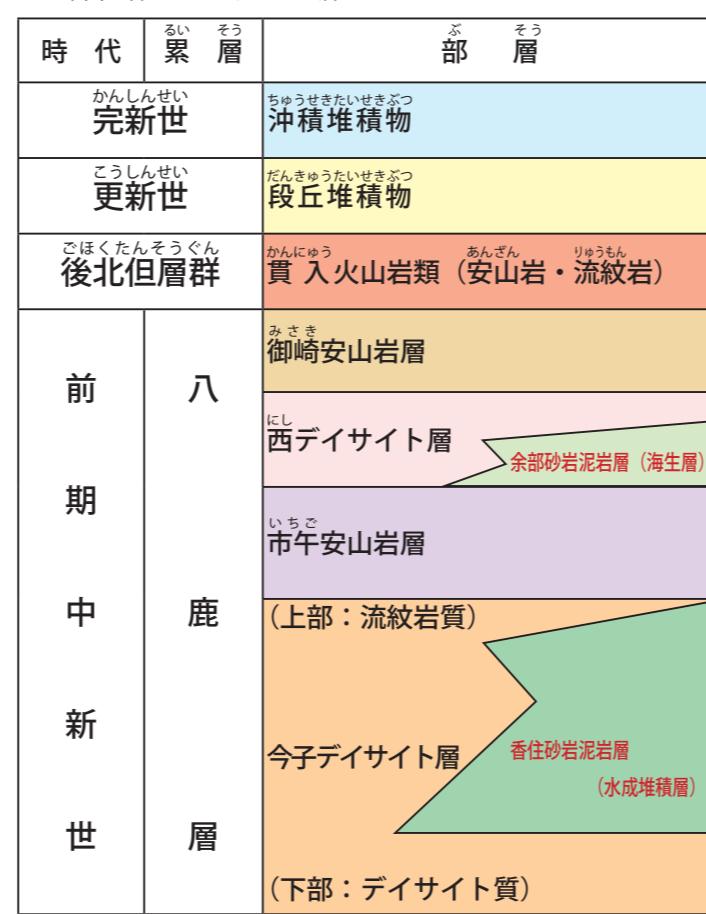
町役場の北東約2,400mに北西を向く崖が比較的長く続く。その崖下に広く砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層が分布する。印跡層は主に泥岩層面である。

印跡動物：ゾウ・シカ・鳥類 多数



まつ
松ナワテ

※本面の各カラーは、この地層のカラーに基づき色づけされています



町内【下浜・今子・柴山・小原】産出化石から

○植物化石のコナラ・タブノキ属、ウリノキの一種や豆類・ナウマンヤマモモ・チュウシンフウ等々が。

○淡水貝類化石はタニシ・エゾマメタニシ・カワニナ・イシガイの各科が。特にイシガイ科の二枚貝は幼生期にコイ科魚類に寄生し稚貝となるから、繁殖するにはコイ科魚類の棲息が不可欠です。実は香住砂岩泥岩層から宿主であるコイ科魚類の歯の化石が多数産出しています。(他に淡水魚類のウロコ・咽頭歯・骨の化石も多数産出)

写真に見る産出化石は八鹿層(香住砂岩泥岩層-古香住湖)からの産出で、年代測定で前期中新世の1,950万年前後にあたるものであることが、このたび明らかとなりました。

